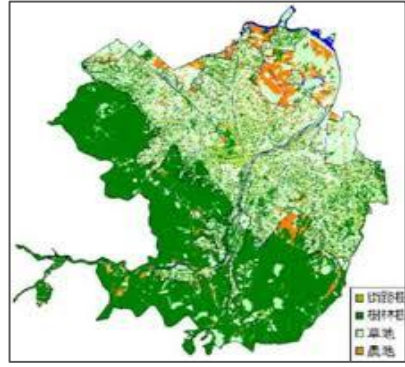


研究テーマ：区ごとの緑被率と人口密度にはどんな関係があるのだろうか

○緑被率とは？

ある地域の面積のうち緑(樹木、草地、農地など)に覆われた土地がどれくらいの割合を占めているかを表す重要な指標。



○研究の背景

- 札幌といえば自然が多いイメージだが、区ごとに緑の多さは大きく違う
- 人口が多い場所はビル・住宅が多く緑が少ない
- 郊外は自然が多いが、人口が少ない
- ⇒実際にどのような傾向があるか調べ明白にする

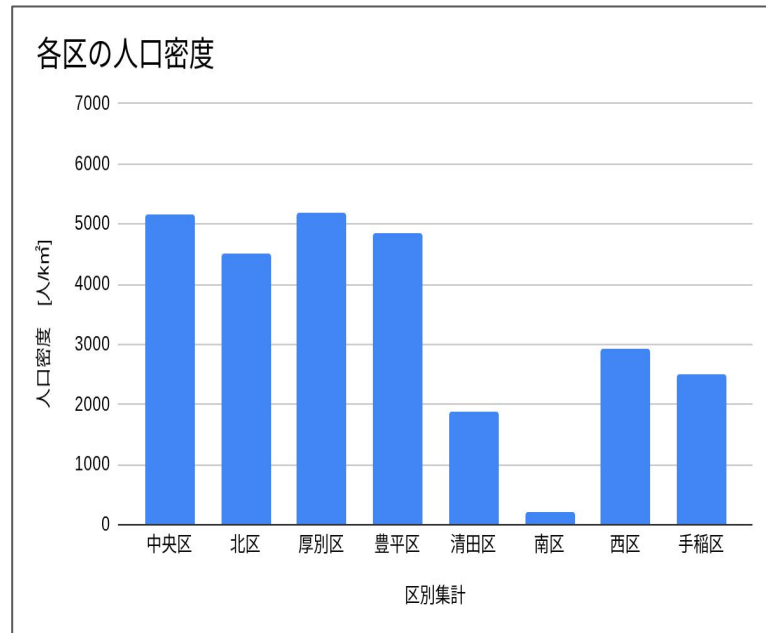
○緑被率に着目した理由

- 緑被率は面積が異なっても、地域の中にどれだけ緑が確保されているかを数値で比較できるため。
- ⇒札幌市は各区で面積が異なっている。

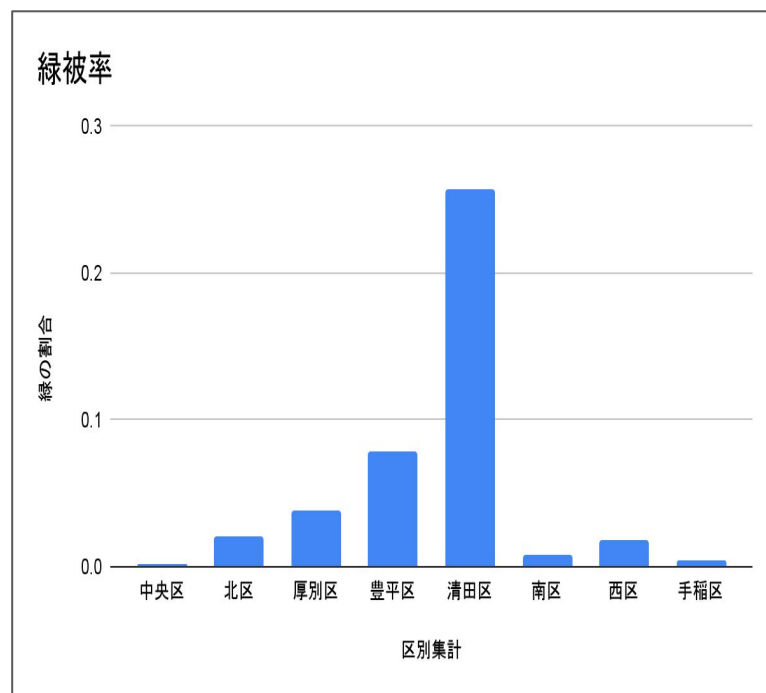
○研究方法

- 緑被率: DATA-SMART CITY SAPPOROの「地域のみどり一覧」より各区の緑の面積を札幌市のウェブサイトの区別面積で割り100をかける。
- 人口密度: DATA-SMART CITY SAPPOROの「統計区別世帯数及び男女別人口(住民基本台帳人口)」より各区の人口を区別面積で割る。

○研究結果



人口密度が高いほど緑被率が低くなる傾向が見られる(中央区や北区など)。南区や西区のように人口密度は比較的低いのに緑被率も低いという区も見つかった。



人口密度は緑被率に影響を与える要因の一つになっている。同じ札幌市内でも土地によって明確な違いがある。

○考察

人口密度が高いほど緑被率が低くなる傾向が強い理由
多くの人々が狭い土地に住むため、住宅地や道路の面積が増加し、緑の面積が減少するから。

例外]人口密度・緑被率ともに低い理由(南区や西区)
緑被率はあくまでも市街化部分における緑が対象で山や森林などは市街化域外とされるから。

[改善策として考えた取り組み]

人口密度が高い地域(中央区や白石区)

⇒屋上・壁面緑化、既存の公園の活用。

都市計画

⇒ヒートアイランド対策で公園整備や街路樹増加、
防災対策では植物で雨水吸収・流出抑制効果を活用

人口密度が低い地域(南区や西区)

⇒住宅を集約し、緑の使い方を変える。

子育て

⇒緑の量が多い地域は心身の発達にいい影響があるため、緑被率が少ないところに公園を増やす。

○参考文献

札幌市デジタル戦略推進局.”地域のみどり一覧”. DATA-SMART CITY SAPPORO.2025-02-17.

https://ckan.pf-sapporo.jp/dataset/kouen_ryokuchi(参照2025-12-05).

札幌市デジタル戦略推進局.”統計区別世帯数及び男女別人口”. DATA-SMART CITY SAPPORO.2026-01-22.

https://ckan.pf-sapporo.jp/dataset/juuki_6(参照2025-12-05).

一般財団法人環境イノベーション情報機構.”環境用語集”. EICネット.2009-10-14.

<https://www.eic.or.jp/ecoterm/?act=view&serial=3166>(参照2025-12-05).